

平成 28 年度事業報告

1 公益目的事業

① 対馬丸記念館の管理運営事業

対馬丸記念館の管理運営に資するよう事業の円滑な遂行に必要な協議を行うために内閣府、県及び厚生労働省(オブザーバー参加)の関係部署並びに対馬丸記念会を構成員とした「対馬丸平和祈念事業協議会」を平成 28 年 4 月 1 日に発足し、来館促進等をテーマとして協議会を 2 回開催した。

ア 常設展事業

平成 26 年に行幸啓が行われ、一昨年は戦後 70 年の節目の年であったことから、対馬丸のことが県内外に広く報道され対馬丸記念館(以下、「記念館」という。)の周知につながっている。そのために、公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」、平和の種を蒔く施設として平和の発信に一層努める必要がある。

イ 特別展事業

(ア) 沖縄タイムス社主催第 64 回全琉図画・作文・書道コンクール「那覇秀作展」開催 期間：平成 29 年 1 月 7 日～平成 29 年 2 月 12 日 観覧者 1,363 人

展示作品：那覇市内小学校 159 点、中学校 108 点(図画・作文・書道の最優秀賞・優秀賞)

感性と知性の調和のとれた子供の成長を促すと共に、子供たちの自由な表現から改めて平和の大切さを感じてもらうことを目的として開催した。作品が展示される児童生徒に対しては、絵葉書を送って開催案内をした。

作品観覧にきた同伴者の内訳：家族 69%、個人 11%、友人 15%であった。展示会を通して児童生徒、家庭等との結び付きを強め、対馬丸のことを知って貰う良い機会になった。

(イ) テーマ：「奄美大島と対馬丸—いのちと魂を受け止めた島と対馬丸の縁をたどる—」 期間：平成 28 年 8 月 22 日～10 月 2 日(日) 観覧者 2,015 人

新聞資料や書籍に残された証言、絵、写真等をパネル化し、実物資料と共に展示した。奄美大島に視点を当てた展示会は初めてとなり、生存者を助けた奄美大島の人々の証言を展示することで

知られていなかった当時の様子を克明に、多角的視点で伝えることができた。

僅かな生存者と多くの犠牲者の遺体が漂着した奄美大島は対馬丸の「命と魂」の拠り所であり、平成29年3月19日に実施された対馬丸慰霊之碑建立につないでいく企画になった。

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸の悲惨な歴史に関する証拠資料の収集に努め、学童疎開について調査研究をした。

エ 来館促進支援事業

対馬丸平和祈念事業協議会に県教育委員会平和教育担当指導主事、沖縄観光コンベンションビューロー職員を参考人として招聘し、来館促進の課題等について意見交換した。

また、県教育庁義務課長に依頼して、同課長から各市町村教育委員会、各市町村立小・中学校長等あてに「対馬丸記念館の利活用について（依頼）」の文書発出をして貰った。

協議会メンバーである内閣府沖縄振興局職員と共に那覇市教育委員会他6教育委員会を訪問し、対馬丸記念館への来館促進を呼び掛けた。

平成28年度入館者数…添付

② 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の挙行

8月22日に小桜の塔前で慰霊祭を挙行し遺族、生存者、関係者で犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈念した。

参加者約450人

イ 語り部事業

生存者や遺族等の語り部による県内外での講話、小中学校等からの依頼に応じて講話実施。講話実績 延べ148回 内訳：館内95回・館外53回（県外2回を含む。）受講者：延べ15,655人

ウ 相談事業

那覇市社会福祉協議会の資格を有する経験者に依頼し第2・第4木曜日に（21回）デイケアを行い、その他健康や各種年金に関

することなど遺族、地域の高齢者等に対し助言・相談を行った。

エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者や対馬丸の歴史や平和活動など様々な活動を行っている方を講師として、年2回「ちゃーがんじゅー講座」開催

(ア) 平成28年11月19日(土)

朗読による講座 参加人数 98人

講師：石井順子氏、真栄里 勝枝氏

演目1「代筆屋」 演目2「対馬丸」

県内で活動を続ける「沖縄可否の会」による初めての舞台朗読を通して戦争の悲惨さや命の尊さを改めて考える機会になった。

(イ) 平成29年3月4日(土) テーマ：「心臓突然死と心筋梗塞

沖縄の現状を踏まえて」 参加人数 95人

講師：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター循環器内科部長 医学博士 砂川 長彦 氏

長寿県であった沖縄県は、近年、成人肥満者の増加や多量飲酒の生活習慣病の増加の現状があり、その課題を踏まえて主要死因の一つである心臓疾患に焦点を当て、健康作り、平均寿命の延伸、健康長寿の復活に向けた沖縄を目指す為の講話を行った。心臓疾患の症状、社会環境の整備と早期発見、予防の大切さについて理解が深まった。

オ 広報活動

広報誌「対馬丸通信」を2回発行。遺族や生存者及び協力会員、支援者などに配付し、対馬丸記念会の活動紹介と対馬丸記念館の運営状況等を広報した。

那覇市内の小中学校に対して、対馬丸のことを継続して発信するために、那覇市教育委員会を經由して那覇市内全小中学校(54校)に対馬丸通信を配付した。

③ 子供達に対馬丸の悲惨な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

(ア) 平和学習推進連携委員会を2回開催した。

那覇市教育委員会指導主事(平和行政担当)、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各1名、対馬丸記念会理事長の5委員で「那覇市内小・中学校平和担当教師研修会」、「平和学習作品展」等の実施について協議・決定した。

- (イ) 那覇市教育委員会と共催で那覇市内全小中学校平和教育担当教師研修会を2回開催した。
- (ウ) 対馬丸事件に関し、遺族、生存者、県平和祈念資料館等の関係資料の聞き取り調査を実施した。
- (エ) 資料のデジタル化に向けて対馬丸遺族会資料、対馬丸記念会資料、展示用収集物の資料の読み込み、写真撮影、目録作成を行った。

イ 子供達による平和活動発信事業

子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的とする事業として、「つしま丸児童合唱団」（活動日4回/月・於：記念館）の活動を推進した。（平成28年3月28日現在の団人数27人）合唱団は、慰霊の日「沖縄全戦没者追悼式」、対馬丸慰霊祭、うるく童まつり等に出演して活動の成果を披露し、観客とともに平和への誓いを新たにした。

また、前年度から継続して安謝小学校6年生の平和新聞、若狭小学校の「平和の誓い・メッセージ」及び平和学習の取り組みをまとめた掲示物、上山中学校の講話感想文を展示した。

2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

実績：自動販売機2台の販売手数料収入 (152,354円)
書籍「対馬丸 沈む」の売上金収入 (38,880円)

3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

旭ヶ丘公園において白い花の咲くクメノサクラ2本を植栽

4 法人会計「管理事業」

対馬丸記念館の管理運営を実施すると共に、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理業務等を実施した。